

<h1>第 18 号</h1>	<h1>Super Highway</h1>	
<p>発行日 2025. 8. 7</p>		

6 月も消費者物価指数上昇、実質賃金はマイナス

総務省が 7 月 18 日発表した 2025 年 6 月の消費者物価指数は、生鮮食品を除いたもので 111.4 となり、前年同月比で 3.3% 上昇しました。ガソリンの小売価格を抑えるための定額補助が伸びを抑え 5 月の 3.7% を下回りました。

エネルギー価格全体は 5 月の 8.1% 上昇より伸び率が大幅に縮んで 2.9% の上昇。ガソリンは、8 カ月ぶりに下落し 1.8% 下がった。最大 10 円の定額補助が始まったのに加え、直近の原油安も反映された。電気代は 5.5% 上昇・都市ガス代は 2.8% 上昇したが、いずれも伸びは縮小した。

生鮮食品を除く食料は、1 年 9 カ月ぶりの高い伸びとなり 8.2% の上昇だった。コメ類は 100.2% 上昇、引き続きコメ価格は 1 年前の 2 倍の水準にある。

8 月 6 日、厚生労働省が公表した令和 7 年 6 月分の毎月勤労統計調査（速報）によると、事業所規模 5 人以上の現金給与総額は前年同月比で 2.5% 増の 511,210 円でした。一般労働者は 3.0% 増の 685,150 円、パートタイム労働者は 2.0% 増の 124,093 円で、パートタイム比率は 31.05%（0.35 ポイント上昇）でした。また、所定外労働時間は 9.7 時間（3.0% 減）でした。

一方、現金給与総額に物価の変動を反映させた実質賃金は、前年同月比 1.3% 減と 6 カ月連続のマイナスとなりました。物価の上昇に賃金の上昇が追い付かない状況が続いています。

経済の正常化を進めるには、長期的に賃金の上昇が物価の上昇を上回ることが不可欠！！



J R バス関東で働く仲間を一つに！